
空言紡ぎ

擘月 - ka「d/z」uki -

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空言紡ぎ

【コード】

N0034J

【作者名】

嘩月・k a r d / z r u k i

【あらすじ】

.....

(前書き)

空言紡ぎ(そらごとうむ)ぎ

今までの自分の作品を「浅はかで意味が無い」と綴りました

前作の『NOISE RADIO「VOICE」』の想いを真剣に
書く+自分が愚かだと書いた作品です

時間がかかったし、意味を詰め込みまくったので、文をよく噛み砕
いて解読してください

では、じゅるじると

喉は枯れて 心は枯れていた
掠れた上辺だけの音を 鼓膜に刻もうとした

ただど意味の無い詩などに 突き動かされるはずも無い
虚無の部屋で朽ち 消えていく

繰り返しの空言を飽きずに紡いでいた

この世界のカタチに 誇示通懸をして 忌み言葉を綴る

弱く無知の薄い詩などに 突き動かされるはずもない

虚無の部屋で朽ち 消えていく

悲哀的な歌が好きなので それらしく歌ってみせた
紡ぐ詩に 意味を求めた

言の葉がそれらしいだけの歌に乗せて消え入る
「いつか何かに」 淡い 淡い 淡い 淡い………

虚無の部屋で奏しんでいた 霧を泳ぐ様に宛もなく
咲き出す時が終り？ 怖い……

哀滲む様に強く弱く重く 潰れそうな声を吐き出した
交錯する音に 意味を求めた

見たくなどない冷めた現実に絡み付かれ俯いた
「いつかきつと」 淡い 淡い 淡い 淡い……

喉は枯れて 心は枯れていた
掠れた上辺だけの音を 鼓膜に刻もうとした

「これさえも空言」

虚無の部屋で まだ……

(後書き)

誇示通懸

(こじつけ)

奏しんでいた

(かな)しんでいた

哀滲む

(かなし)む

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0034j/>

空言紡ぎ

2010年10月10日12時22分発行